

5 防災整備計画

(1)「浜見平地区まちづくり計画」における位置づけ

防災整備計画については、「浜見平地区まちづくり計画」において、次のように位置づけられています。

＝「浜見平地区まちづくり計画」における防災整備計画の位置づけ＝
(防災整備関連のみ抜粋)

■計画の目標■

安全・安心なまちづくり

●安全性の高い地域づくり「地域防災拠点」

- ・不燃建築物群と防災機能を有する公園を中心に、地区全体を防災拠点とした地域防災の充実を図る。

《緑・歩行者ネットワーク》

■公園・緑地計画■

●公園の整備

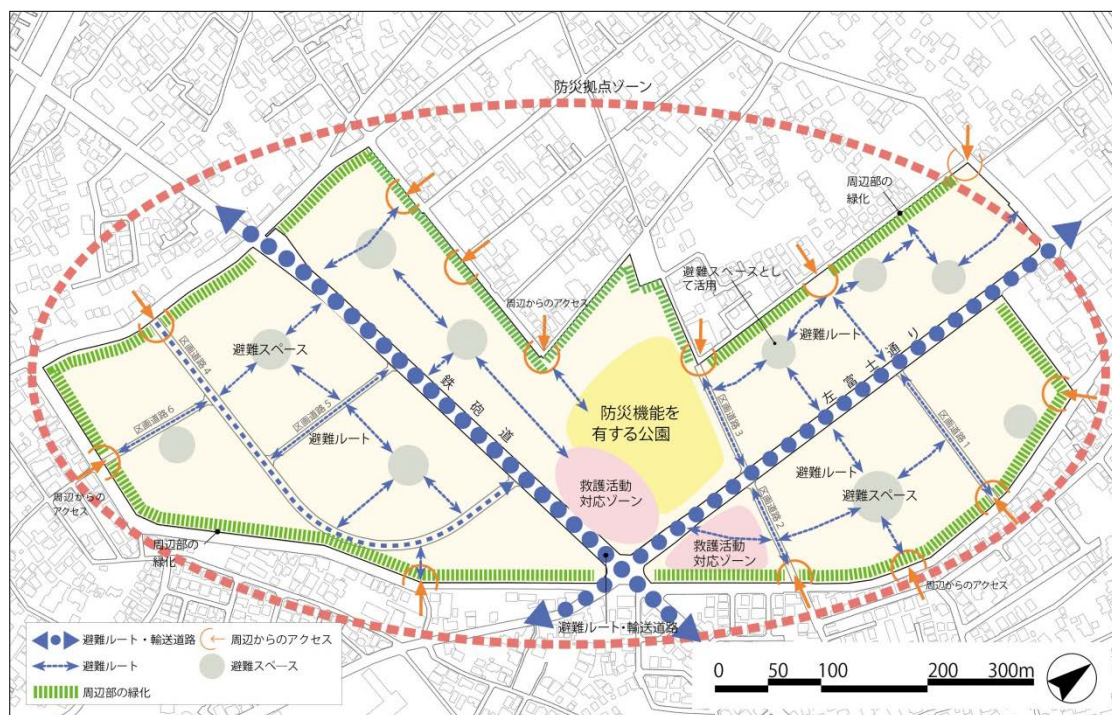
- ・地域のスポーツやレクリエーションに対応し、災害時には避難場所として機能する約1.4ha程度の公園を整備する。

《道路・交通ネットワーク》

■基本方針■

○団地建替え事業に併せて

- ・災害時の避難を容易にする道路ネットワークの整備を行う。



注)「浜見平地区まちづくり計画(平成30年3月)」防災計画イメージ図を転載。

■防災計画イメージ図

(2) 整備方針

「浜見平地区まちづくり計画」を踏まえ、しろやま公園を中心とする防災機能・施設の整備計画案を策定します。

計画案の策定に際しては、以下の方針を踏まえた計画とします。

●「茅ヶ崎市地域防災計画」に基づく防災機能を確保します。

- ・茅ヶ崎市地域防災計画との整合性が図れるよう、庁内関係部局との調整のもと、市南西部における防災機能の充実に努めていきます。

●一時的な避難、復興活動に対応する公園を整備します。

- ・避難場所としての機能を持たせるため、火災の輻射熱に対する遮蔽効果を高める防火力のある樹種の植栽により安全対策を図るほか、避難生活、仮設住宅の建設への転用を想定したかまどベンチや防災トイレ等の公園施設を整備します。

●周辺施設との連携により、防災上の相乗効果を展開します。

- ・公共公益施設等は、情報提供等、公園と一体的な拠点形成を目指した防災施設の導入等を図ります。
- ・災害時の救援物資の提供や避難場所の提供について、関係事業者等と協力体制を構築します。

●安全な避難ルート・輸送道路を確保します。

- ・左富士通りと鉄砲道は、電線類地中化を図ることにより、震災時の電柱の倒壊を回避するほか、歩道状空地を含めたオープンスペースを充実し、避難ルート・輸送道路としての安全性・機能性を向上します。
- ・浜見平地区内の緑のネットワークは公園までの安全な避難ルートとして位置づけます。
- ・浜見平地区と周辺を遮断している松尾川雨水幹線は、周辺の良好な住環境への配慮のもと暗渠化による歩行者空間の整備等を行い、周辺からの避難ルートを確保します。

(3) 防災備蓄施設の配置

ア しroyama公園

しろやま公園には、以下の防災備蓄施設が整備されています。

①防災備蓄倉庫の備蓄品

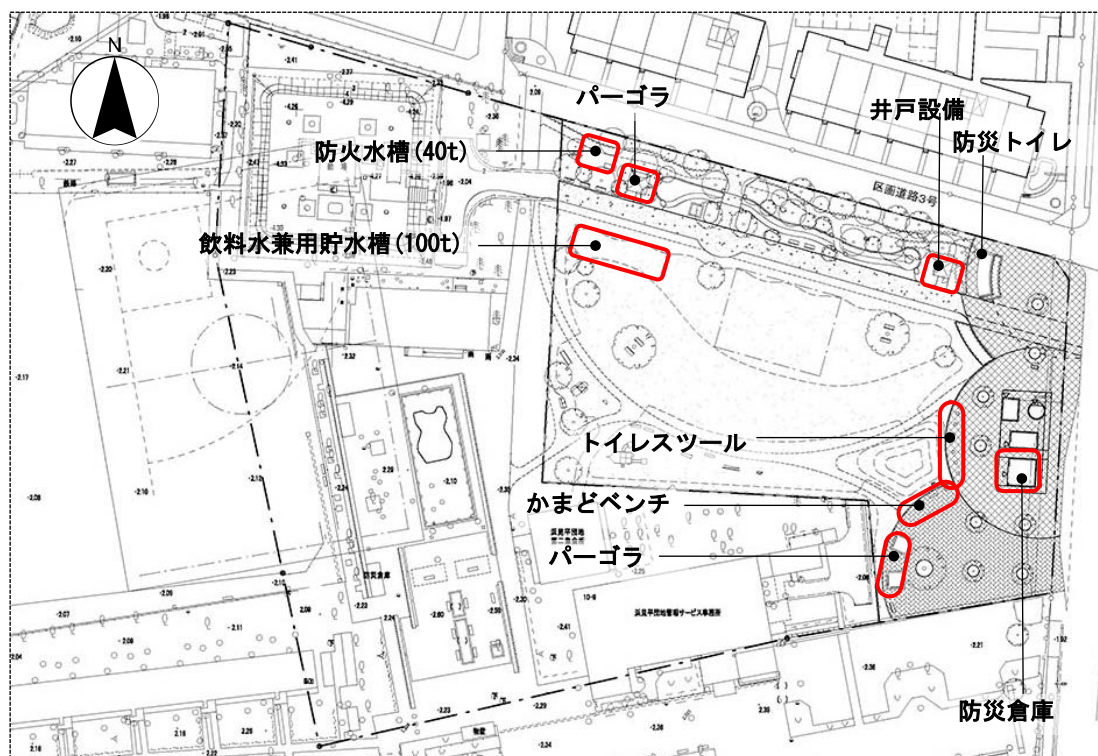
左富士通りに面したトイレに併設されている防災備蓄倉庫には、以下の備蓄品が準備されています。

【防災備蓄倉庫の備蓄品】

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| ・毛布 10 箱（100 枚） | ・汚物処理セット 30 箱（3,000 回分） |
| ・簡易テント | ・ちり紙（15,000 枚分） |
| ・電機（発電機、灯光器、コードリール） | ・救助用具（担架棒、ブルーシート） |
| ・かまどベンチ、防災対応型パーゴラの付属品 | |

②飲料水兼用耐震性貯水槽

飲料水兼用耐震性貯水槽の水量は 100 トン（100,000 リットル）であり、ろ過なしで新鮮な飲料水の確保が可能となるよう、貯水槽内の水が常に循環する構造となっています。想定可能供給人数は約 33,300 人分（一人当たり1日3リットル）です。



■ しroyama公園の防災施設位置図

③井戸設備

- ・井戸は深井戸（30m 以上）としており、災害時に使用できるように手動で汲み上げる方式となっています。

④防災トイレ、トイレスツール、かまどベンチ

- ・通常時は駐輪場として利用するスペースには、災害時にテントと便座を設置する防災トイレを整備するほか、災害時に座面を取り外してトイレとして利用できるスツールを整備しています。また、災害時にかまどとして利用できるベンチを整備しています。

⑤避難用仮設テント

- ・通常時はパーゴラとして利用し、災害時は骨組みに幕を張ることができる避難用仮設テントを整備しています。



井戸設備



トイレスツール



かまどベンチ



パーゴラを使った避難用仮設テント

イ ハマミーナ（茅ヶ崎市南西部複合施設）・商業施設の防災施設

ハマミーナ（茅ヶ崎市南西部複合施設）・商業施設には、以下の防災施設が整備されています。

- ・津波一時退避場所として協定が結ばれており、3階（床高約 8.6m（標高＝約 11m）の体育室（約 500 m²）は、津波警報等の発表時に開放されます。
- ・非常用電源装置及び自家発電装置により、3日間のバックアップが可能となっています。
- ・延べ 1,500 人（500 人×3 日）に対応することを想定した防災備蓄品が準備されています。

【防災備蓄品】

- | | |
|------------------------------|---------------------------|
| ・非常用備蓄食（1 箱 50 食）×90 箱 | ・保存水（1 箱 2 L 6 本）×376 箱 |
| ・紙コップ（1 箱 2,500 個）×2 箱 | ・発砲どんぶり小（1 箱 1,800 個）×4 箱 |
| ・割り箸（1 セット 500 膳）×10 セット | ・救出工具 1 セット |
| ・救急セット 2 セット | ・手回し式充電ラジオ 3 個 |
| ・簡易トイレ（1 セット 10 個）×450 セット | ・毛布（1 箱 20 枚）×25 箱 |
| ・トイレトイレットペーパー（1 箱 24 ロール）6 箱 | |

ウ 住宅地内の防災設備等

UR賃貸住宅、民間分譲集合住宅には、防災用かまどベンチ、防災トイレ、一時避難が可能な広場等が確保されています。

エ 津波一時退避場所

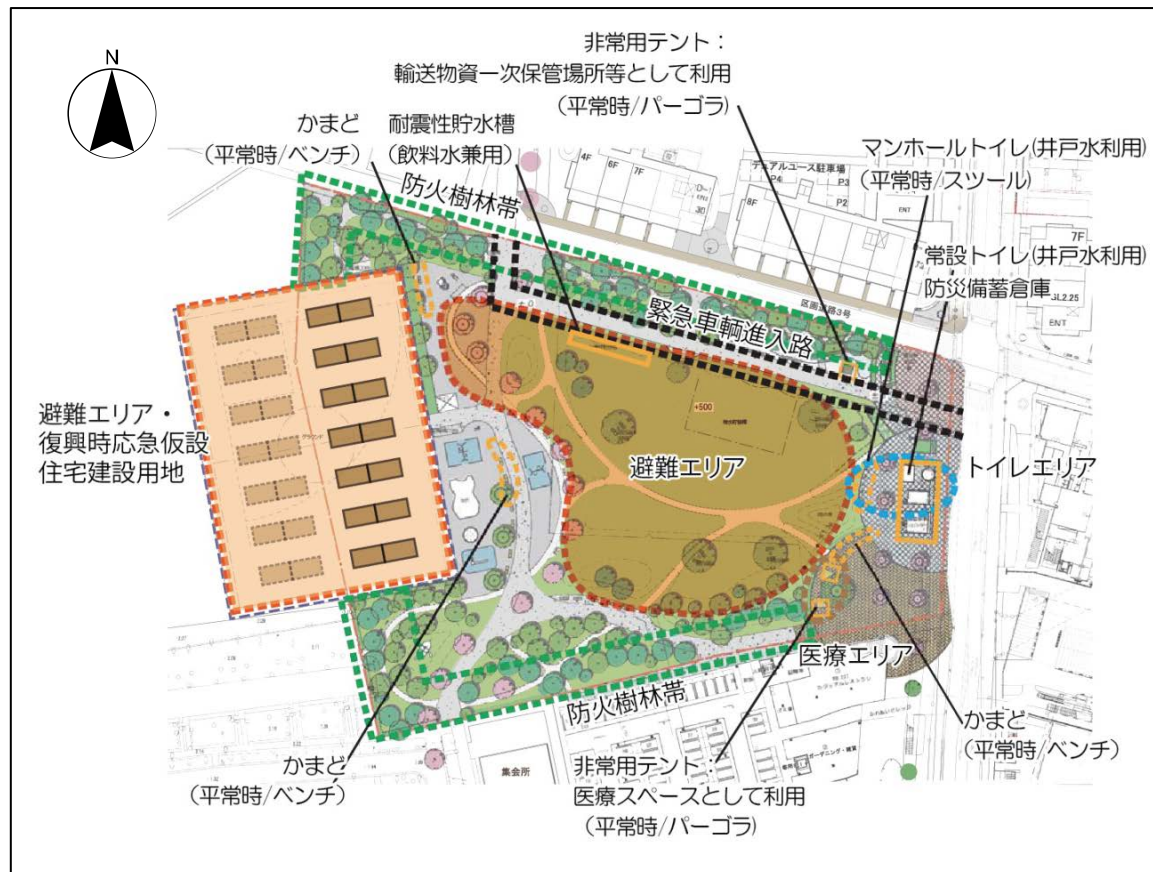
津波からの一時退避場所として、ハマミーナ（茅ヶ崎市南西部複合施設）・商業施設

の他、UR賃貸住宅や民間分譲集合住宅において、市と津波一時退避場所協定が結ばれています。

(4) 災害時公園利用計画

災害時には、しろやま公園内の防災設備と中央の避難エリアを活用します。

また、長期的な復興活動に向け、グラウンドに応急仮設住宅の建設も考えられます。



■災害時公園利用計画図

(5) 地域住民への周知と管理

湘南・南湖のまちづくり協議会では、住民による地域防災組織が、現在活発に活動しており、災害時の情報伝達手段の確保や、しろやま公園の災害時の使い方の周知、一時退避場所の周知等の活動を進めて行くことが重要です。

また、防災施設の管理については、発災時に迅速に利用できるよう、地元組織による自主管理の可能性について、今後、地元と協議していくことが考えられます。